



小野 幸男 議員

- 1、各漁港の安全対策について
- 2、更なる観光事業の展望について

A 市長 ①震災前の砂州を復旧する案が河川管理者から了解を得ることができ事業申請中である。
②防犯灯の整備と併せ、復興交付金に代わる別事業での対応を検討する。

A 市長 ①コストのかからないインバウンド対応を活用し24時間通訳ナビダイヤルへ

④奥松島公社が発起人となり「観光奥松島の会」が結成され地域活性化の牽引役として期待する。



▲早期解決が待たれる浜市漁港

Q ①浜市漁港の将来性は。
②各漁港への監視カメラの設置は。

Q ①インバウンド対策の進捗度は
②自然の家とのコラボレーションの取り組みは
③複合施設内の食堂部門の対策について④奥松島公社の新たな取り組みの方向性は。

の登録を推進する。
②大変魅力的な施設となることから自然の家を活用した観光客誘致プログラムを模索中である。
③宮戸コミュニティ推進協議会と引き続き相談する。

A 地域商社として役割を果たす

Q 更なる観光事業の展望について



▲西矢本地区のほ場整備事業の様子



大橋 博之 議員

- 1、鳴瀬地区のほ場整備事業を問う

Q 平成26年第4回定例会において県営ほ場整備事業を強力に推進せよと質問をさせていただいた。現在市内におけるほ場整備実施地区は8地区となり最終的な整備率は80%を超えることを数値目標とするとの答弁であった。その中で未整備である鳴瀬地区の上下堤・川下地区・西福

A 市長 ①上下堤・川下地区はすでに推進委員会が設立され

に推進委員会が設立され

Q 鳴瀬地区のほ場整備事業を問う

A 採択に向け強力で推進する

田下・新田・高松地区のほ場整備事業への取り組みについて基本的な考え方を伺う。

①各地区での事業採択の目標年度は②矢本地区との整備時期のバランスは③県、土地改良区、JA等との連携体制は

平成34年度の事業採択に向け作業を進めている。西福田下区・新田区は土地改良区へ加入を実現し平成35年度の事業採択に向け作業を進めていく。